

社会貢献

但陽信金に最優秀賞

全職員でボランティア

全国信用金庫協会は、地域に根差した活動をたたえる「信用金庫社会貢献賞」の最優秀に当たる会長賞に、但陽信用金庫（加古川



但陽信用金庫のボランティア活動。車いす利用者の移送などに取り組み。加古川市内（但陽信金提供、2012年撮影）

市)の「全職員参加のボランティア活動」を選んだと発表した。兵庫県内に本拠を置く信金が会長賞に選ばれたのは初めて。

同賞は1997年に創設され、23回目。昨年10〜12月、個人賞などと合計で166団体から559件の応募があった。

但陽信金は、95年の阪神・淡路大震災を機に職員が被災者支援のボランティアを始め、高齢者や障害者と接した。2000年にはNPO法人「但陽ボランティアセンター」を設立した。全職員を持ち回りで派遣し、車いす利用者の移送、独居高齢者のケア訪問などに取り組み、生活相談にも応じている。

約25年で職員延べ2万8900人が携わり、本業と福祉の両輪で存在価値を高めた点などが「信金の社会貢献活動の模範」と高く評価された。但陽信金の桑田純一郎理事長は「『させていただく』という意識で、職員の間教育の場にもなっている。地域になくはない。金融機関でありたい」と話している。

(佐伯竜一)

6月5日(金)
神戸新聞分

こんな時だから少しほっと。
仕事とはかけ離れたことに価値を求めて行動するのはいかかなものかと考えても、やはり人の心の奥底には人で動く、情で動く。それらは動いてもらおうと思っても動くものでないことを、自らが「させていただく」「してあげたい」と思って初めて得ることが出来るのかもしれません。